

行政視察受け入れ報告

新潟県胎内市議会

10月12日に新潟県胎内（たいない）市議会の会派（政和会、公明党）の一行（5名）が、本市子育て支援総合施設「モッカランド」を行政視察されました。この中で、施設の概要及び特徴、施設の設置に至る経緯及び目的、施設における子育て支援サービスの内容等について説明を行い、活発な質疑が交わされました。



たいない
胎内市議会による視察風景

神奈川県大和市議会

10月13日に、神奈川県大和（やまと）市議会の総務常任委員会の一行（8名）が、本市デジタルトランスフォーメーション（DX）加速化事業について行政視察されました。この中で、スマート公共ラボ電子申請システムの仕組み、デジタルデバイト問題への対応等について説明を行い、活発な質疑が交わされました。



やまと
大和市議会による視察風景

次の市議会定例会は、
開会日を12月4日（月）、一般質問を12月7日（木）、8日（金）に予定しています。

インターネットによる議会中継も行います。
「パソコン・スマートフォン・タブレット」で議会映像を視聴できますので、ぜひご家庭でご覧ください。

大川市HPの「市議会」バナーを押す。

市議会 city council

市議会HP下部の「インターネット中継」を押す。

関連リンク
インターネット中継（外部サイトにリンクします）

大川市議会「インターネット中継」から視聴できます。

ホームページアドレス
<http://www.okawa-city.stream.jfit.co.jp/>

大川市議会 検索



こちらのQRコードを読み取ると、簡単にご覧いただけます。
QRコードは、（株）デンソーウェーブの登録商標です。

なお、議会の日程は変更になることもあります。
詳しくは、議会事務局にお問い合わせください。
（TEL 85-5622 直通）



大川市のごみ行政と清掃センターの課題について

馬淵 清博 議員

問 生ごみを資源と捉えた分別収集の取組への考えは。

答 生ごみを分別収集するには、収集方法や、生ごみの処理、活用方法等を検討した上で行うことになりませんが、受入れ処理施設、収集方法などの費用をどのようにするのといった課題が考えられます。今後、清掃センターの建て替えや広域化などを考える際に併せて検討する課題ではないかと考えています。

問 紙おむつのリサイクルへの取組の考えは。

答 収集方法などの課題のほか、運搬費用と処理費用がかかりますので、費用対効果を考えて、現状では焼却することを継続していかうと考えています。

問 清掃センターの延命と同時に、今後の方針と取組も考えていかなければならない時期では。

答 ごみ処理については、効率性やごみ焼却技術も先進的なものが出てくると思うため、広域で取り組んでいくことは大変いいことではないかと思っています。一方で、ごみの出し方などは自治体によって異なるのが現状です。清掃センターが近くにあるのでごみを出せる状態も便利だと思います。ただ、炉の寿命はいつか来ますので、延命措置をしながら、近隣自治体や先進地の研究を行っています。本市単独での建て替えは、国の方針もあり難しいと感じているのも現状です。

市民の皆様の生活の快適さ、ごみの減量化と広域連携などを考えながら、検討していきたいと思っています。また、近隣の首長ともよく話し合いながら、当該地域のごみ処理について考えていきたいと思っています。

問 コミュニティ・スクールの施策の充実については。

答 市教育研究所では、学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員、教職員を対象とした講座を開催しています。昨年度は学校と地域が目標やビジョンを共有するための熟議の重要性を研修しました。5年度は熟議を通した目標の共有と実践、ふるさと学習の充実、学校施設等の地域コミュニティへの開放促進を進めています。

問 家庭教育憲章と新安心ネット宣言の内容と周知方法は。

答 家庭教育憲章は、家庭内の親や大人が子ども達を健全に育てていくために具体的に取るべき姿勢を示したもので、入学式で配付して市PTA連合会総会時に朗読していただき、6月と11月の家庭教育強化月間に生活・学習習慣チャレンジカードを配布しています。



コミュニティ・スクール施策の充実について
家庭教育憲章と新安心ネット宣言について
学校での熱中症対策について

永尾 学 議員

新安心ネット宣言は、子どもたちの規則正しい生活、学習習慣の定着を図るために作成しており、市内の保育園、小・中学校やコミュニティセンター等でポスター掲示やチラシ配布を、また、青少年育成市民大会時もポスター掲示等を行い、周知を図っています。

問 学校での水分補給の対応は。

答 水筒の水がなくなった場合は、子どもたちに水道水は安全に飲めることを伝えており、空になった水筒に入れて飲むように話しています。また、細やかな声かけや休み時間に校内放送を行い、小まめな水分補給とクラス一斉の水分補給の時間を設けて、子どもの様子や水筒を確認しています。あわせて、日頃から困ったときは自分から気持ちを伝えるように指導し、自分の健康を維持、増進できる子どもの育成を行っています。